



後藤 奏子

用いて図面を再考していくことを学びました。「ライブラリー」では模型を十分に作る事ができなかったため、積極的に建物のパースを出力し、空間デザインの検討を行いました。データが重くなり大変でしたが、CADは色をつけたり家具を作ったりということもできるので、イメージに近い空間をつくるためのツールとしては最適だと思いました。

指導=柳田 武

これまで、3年次後期「設計演習Ⅰ」のCADコースでは、主として2次元のCADを、4年次前期「設計演習Ⅱ」のCADコースでは、3次元のCAD/CGを使って設計を進めること

を行ってきた。しかし、2次元はどちらかというと、設計の道具というよりは、製図のためのツールという面が強く、取り組む方の興味も最初から3次元で表現してみたいという思いが強い。したがって、最近では2次元がだいたい使えるようになると、すぐ3次元に取りかかる人が多い。ここに挙げた作品は、3年前期の課題設計「まちのライブラリー」を、3次元に立ち上げて再検討し直したものである。ヤオトンのような地階と1階だけで構成される、利用者にとっては親しみやすい空間構成もさることながら、本人のコメントにもあるとおり、「手書きの図面や模型では表すことのできな

い表現力をもつ設計ツール」としてのCADによって、自分が構想した空間をいろいろな視点から検討することを試みている。こういった取り組み方を重ねることによって、設計の初期の段階から「CADを使って設計する」という進め方につながっていくことが期待される。今年度はCADコースの希望者が非常に多く、スタートの時点では25名もいた。従来は、CAD室に用意されているパソコンの台数を目安に、15名程度に調整していたが、最近では、個人でパソコンを持っている人が増えたため、機械的に人数を制限することはしていない。が、実際はパソコンを持っているがあまり使う機会がなく、それほ

ど活用していないので、この段階で授業としてCADに取り組んでみたいというケースが多いようだ。したがって、CADについても初歩的な段階からスタートする人が多い。しかし、最近ではCADソフトも学生用の価格を設定しているものが増えてきて、個人でも手が届く状況になってきているので、興味のある人はもっと早い段階から是非チャレンジしてほしい。また、ある程度基本的なことがわかっている人は、CADコースに限らず、他の設計製図の課題設計やデザイン・ユニットの中でも、おおいにCAD/CGを活用してほしい。設計におけるCAD/CGのウェイトは、ますます大きくなっている。

【2組】

後藤 奏子

今回、私は建築設計製図の課題「ライブラリー」を通して、CADの基本的な操作とCADを